

VI-220 土木工事情報データベースの検索システム

清水建設(株) 正会員 長峯 洋
同上 正会員 比奈地信雄

1. はじめに

土木工事情報データベースは、昭和 58 年頃に構築した初版を新たに再構成したものである。本データベースには、当社が建設に係わった土木工事 13 000 件余り(施工中を含む)に関する実績情報と、総員で約 6 000 人の施工経歴が収録されている。この情報は営業、技術、施工、配員など多方面の業務に活用されており、本システムは組織に定着したといえる。本論では、データベースの再構成に伴い機能の拡張を果たした最新版の検索システムの部分について論述する。

2. 検索システムの概要と構成

(1) 検索システムの機能拡張の方策

対象としている検索システムは、不特定の利用者から求められる随時の情報ニーズに対処する汎用型検索システムである。特定の業務に定型の情報を提供する専用型システムは別途に保有している。従来より汎用型検索システムは利用頻度が高く、年間の利用件数も延べ 900 件程に達しており、旧システムには利用者側から幾多の改善要望が寄せられていた。これと、提供側の検索記録に記された不具合や問題点を突きあわせた結果、検索システムに組み入れるべき主な機能として、以下に挙げる項目が設定された。

- ・開始画面で検索の処理方法の全体が選定できる。
- ・口座や工事の漢字名称を文字列で検索する。
- ・光ファイリングシステムに収録した現物資料を連動して検索できるようにする。
- ・検索件数を部門別に集計する。
- ・検索結果を一時的に保持し、個別工事の工事費構成や専用書式に編集する機能と連動させる。
- ・検索で指定された索引と検索件数などを記録する

(2) 検索システムの全体構成と検索処理

機能の拡張により検索システムの構成と検索処理の流れのあらまは、図-1に示すように改善された。索引を設定するのに用いる主要な画面と、検索結果の編集書式などを、検索事例を添えて図-2で示す。

3. おわりに

本システムの利用状況を監視し、定期的にシステムを評価することで、検索システムを含めたシステムの改良を今後とも必要に応じて実施していきたい。

また、索引の使用状況が自動的に記録できるようになったので、索引体系を見直す時の尺度が得られるように、データの分析方法を検討していきたい。

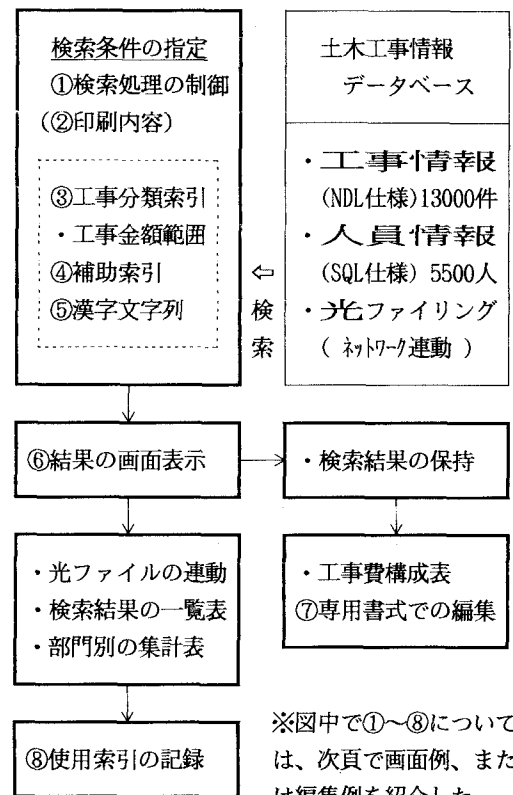


図-1 検索システムの全体像と検索処理の流れ

